

またばこそふけ行かねもつらからめかへるあしたの鳥のねぞうき、藏人はしり歸て此よし申たりければ、さてこそなんぢをばつかはしたれどて、大將大にかんせられけり、それよりしてこそ、物かはの藏人とはめされけれ、

〔平家物語六〕新院ほうぎよの事

このやうえんは、ゆうにやさしき人にておはしけり、あるこきほど、さすのなくをきて、さくたびにめづらしければほど、ぎすいつもはつねのこ、ちこそすれ、といふ歌をよふてこそ、はつねの僧正とはいはれ給ひけれ、

〔源平盛衰記十九〕文覺發心附東歸節女事

文覺道心ノ起ヲ尋レバ、女故也ケリ、文覺ガ爲ニ、内戚ノ姨母一人アリ、其昔事ノ縁ニ附テ、奥州衣川ニ有ケルガ、歸上テ故郷ニ住、一家ノ者ドモ、衣川殿ト云、若ク盛ン也シ時ハ、ミメ形人ニ勝レ、心バヘナドモ優ニヤサシカリケルガ、今ハ盛過テ世中モ衰ヘ、寡ニテ物サビシキ住居也、娘一人アリ、名ヲバアトマトゾ云ケル、去共衣川ノ子カレバトテ、異名ニハ製染^ナト呼、

〔源平盛衰記十七〕新都有様事

去程ニ治承四年六月二日、都ヲ福原ヘウツサレテ、既ニ八月ニモ成ニケリ○中舊都ニハ皇太后宮ノ大宮^{多子}○藤原^{基房}の子^家十二歳なる中納言、八歳にて中納言になられて、八歳ハズ只一人留給タリケレバ、京童ハ留守ノ中納言トゾ申ケル、

〔愚管抄五〕さて義仲は、松殿^{基房}○藤原^{の子}十二歳なる中納言、八歳にて中納言になられて、八歳の中納言と云異名有し人を、やがて内大臣になして、攝政長者になり、又大臣の闕もなきに、實定の内大臣を、暫てかりてなしたれば、世にはかるの大臣と云異名又つけてけり、

〔鳴門中將物語〕彼少將は、隠者なりけるを、あらぬかたにつけてめしいだされて、よろづに御なさ